

第16期町田市立図書館協議会

第12回定例会議事録

日時：2016年10月27日（木） 午後3時00分～午後4時40分

場所：町田市立中央図書館 6階中集会室

■出席者

（委員） 山口洋、清水陽子、増川知子、久保礼子、
鈴木真佐世、齋藤美智子、一川喜久子
（計7名）

（館長） 近藤裕一

（事務局） 中嶋真（副館長）、佐久間隆司、陣内和之

■欠席者 吉川篤、瀧桂子、砂川とき江

■傍聴者 1名

第16期図書館協議会 第12回定例会次第

《議事録確認》

第11回定例会議事録

《館長報告》

1. 人事異動について（資料1）
2. 平成28年（2016年）第3回町田市議会定例会
＜一般質問＞ 9月2日（金）～9月8日（木）
（図書館関係は特になし）
＜文教社会常任委員会＞ 9月16日（金）
（決算）
3. 教育委員会
第6回 9月14日（水）
＜報告事項＞
 - ・開館10周年記念「八木重吉—さいわいの詩人（うたびと）—」展の開催について（資料2）第7回 10月7日（金）
＜報告事項＞
 - ・「2015年度 町田の図書館」の発行について（資料3）
 - ・開館10周年記念「妖怪がいた！—ここにも、そこにも、町田にも—」展の実施報告について（資料4）
 - ・「第10回文学館まつり」の開催について（資料5）
4. その他
 - ・エコフェスタ参加 10月2日（日）
 - ・エルムビル屋上防水工事 10月3日（月）～12月24日（土）
 - ・平成28年度東京都多摩地域公立図書館大会
日時：2月1日（水）10時～16時50分
2月2日（木）10時～12時
会場：立川女性総合センター アイムホール

《委員長報告》

1. 生涯学習審議会報告
2. 全国図書館大会報告
3. 「文部科学省 平成28年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について」について

《協議事項》

1. 図書館評価について（図書館外部評価の進捗状況確認）

《その他》

■議事録

○山口委員長 それでは、定刻になりましたので、第16期図書館協議会第12回定例会を開催いたします。

初めに、議事録の確認です。8月25日、間がちょっとあきましたけれども、前回の議事録です。事前にメールでご連絡が行っているかと思いますが、特に訂正等はなかったかと思えます。特に問題がなければ、これで公開ということによろしいでしょうか。

では、事務局で公開の手続きをお願いします。

続きまして報告事項に入りたいと思えます。

それでは、館長、お願いいたします。

○近藤館長 それでは、館長報告をいたします。レジュメをご覧ください。

1点目が人事異動についてということで、1枚めくっていただきますと資料1がついております。嘱託員が1名、9月20日をもって金森図書館の澤登が退職ということと、それにあわせて鶴川駅前図書館の金澤が金森図書館に10月1日から異動したということが1点でございます。

常勤職員も、10月で市役所全体の異動がありまして、図書館から3名転出ということがございました。1人は、昨年度まで中央図書館の庶務係長をやっていたが、この春から鶴川地域図書館の鶴川図書館の担当係長をしていました小林が財務部の庁舎活用課に異動、あと中央図書館庶務係の柳原が政策経営部の秘書課、あと金森図書館奉仕係の佐藤が財務部管財課へ異動ということになっております。

転入者としましては、同じく庁舎活用課にいました池川担当係長が転入で、鶴川地域図書館の鶴川図書館の担当係長ということで転入しております。それから、秘書課から中央図書館庶務係ということで篠崎、あと資産税課からさるびあ図書館に古川が転入ということになっております。

館内異動ですけれども、金森図書館の佐藤が異動していますので、さるびあにいた本間は金森図書館に館内で異動して、そこにさるびあ図書館に古川が資産税課から転入してきたという状況になっております。

それから、報告事項の2つ目です。議会の関係になります。9月議会、一般質問については、図書館については何もございませんでした。

あと、文教社会常任委員会が9月16日にございまして、今までですと常任委員会では予算の審議とか条例等の改正があった場合の審議ということですが、今回は今まで行っていた決算特別委員会での決算の認定が常任委員会に変わりましたので、図書館から条例改正等のございませんでしたが、決算の認定という意味で常任委員会で審議があったということになります。

何点かそこで出た委員さんの質問等をご紹介したいと思うのですが、1つは、システム更改をしてセルフの貸出とか返却を始めたけれども、市民の方からどのような声が寄せられているかということと、以前、返却期限のレシートの裏に広告を入れていた時期があるのですけれども、それについて今はないけれども、その理由はということでご質問がありました。

1点目につきましては、利用者アンケートを行って、それを見ていると、利用者の方から大変満足をいただいているというような状況にあるということと、レシートについては、広告主が見つからないので現在は行っていませんけれども、それにかわる歳入増の取り組みは行っていますということをお答えしています。

次に、移動図書館のポイントを増やしてほしいといった市民の声はあるかというようなご質問、あと視聴覚資料は中央図書館だけで扱っているのですけれども、それを他館に広げるのは難しいのかということがございまして。移動図書館については、要望は年に1件とか2件あるのですけれども、そのような場合、担当の方で調査をして、実際に車が止められる場所なのかどうか、危険はないのかどうかということ、あと近くにサービスポイントがあるかないか等を総合的に判断していますということをお答えして、実際に忠生図書館の開館に合わせて4カ所廃止したり、新しくつくったりということを行ったということをお話ししました。あと、地域館での視聴覚資料の取り扱いについては、利用者の要望もあるのですけれども、幾つか問題があって今すぐ実現することは難しいというようなことをお答えしております。

それから、この建物の維持補修費の関係で今後の見通しはということをお聞かれました。これについては、後ほどちょっとありますけれども、今年度やるということで、大きな修繕の計画はないのですけれども、今後、施設も25～26年たっておりますので、その都度不具合があれば営繕課と相談しながら対応して

いきたいというようなお話をしております。

あと、さるびあ図書館の学校図書館への貸出ということで教えてほしいということでありました。それについては、団体貸出と学校図書館への貸出ということで支援貸出について特にご説明したところです。

もう1点、忠生図書館の運営の要員は、システム更改によって生み出して配置したということなのですけれども、それによってほかの館の職員の残業が増えたとか、そういった状況はあるかというようなことのご質問がありました。これについては、セルフを入れたことによって省力化できた部分を各館から捻出して忠生図書館に配置したということですので、そのような状況にはありませんということで、実際問題、時間外は2014年度から2015年度と大きく減っていますので、そういったお答えをしたということになります。

以上が議会のご報告になります。

3点目が教育委員会になります。今回、1カ月あいているので2回開催されたのですけれども、9月14日につきましては、文学館でちょうど今やっている開館10周年記念「八木重吉ーさいわいの詩人（うたびと）ー」展の開催についてです。これについては資料2についていますので、後ほど見ていただければと思います。期日は10月22日から12月25日までの54日間ということになります。

次に、10月7日に開催された教育委員会では「2015年度 町田の図書館」について報告をいたしました。それから、文学館の夏展の実施報告、あと、この間終わりましたけれども、文学館まつりの開催についての報告をしました。それは資料3、4、5ということになります。「町田の図書館」の発行についてということで、大まかな構成と概要編と統計編に分かれているということと一部内容もご紹介しましたがけれども、教育委員さんからは特段質問等はございませんでした。

最後に4点目、その他になります。ご紹介するのは3点ですけれども、1つはエコフェスタが10月2日にリサイクル文化センターでございまして、昨年度から参加していますけれども、移動図書館が現地に行きまして、移動図書館を知ってもらうとともに、図書館の宣伝ということで参加してまいりました。今年度につきましては、すごくお天気がよかったですけれども、600名弱の方

が移動図書館に寄っていただいて、再利用本も550冊ぐらい配布しました。

あと、中央図書館の入っているエルムビルの工事の関係ですけれども、屋上防水の工事が10月3日から12月24日までということで今現在行っております。屋上の防水工事ですので、それほど大きな音等はないと思っております。

最後になります。また、詳細が決まったらお知らせいたしますけれども、今年度の東京都多摩地域公立図書館の図書館大会の日程が決まりましたので、ご紹介だけしておきます。今年度は小規模の大会の年に当たりますので、1日半ということで2月1日が10時から夕方5時まで、2月2日が午前中になりますけれども、会場は立川女性総合センター アイムホールというところになります。これは多分立川の中央図書館がある同じ建物だと思います。駅から5分から10分ぐらいのところですよ。細かい、こういう講師の方がこんなお話をするというのが正式にわかりましたら、またお知らせをしたいと思っております。

○山口委員長 報告ありがとうございました。

それでは、質疑に入りたいと思っておりますが、まず1番目で人事異動関係のお話がありました。これにつきまして何かご確認、ご発言はありますでしょうか。

○鈴木委員 10月にこういうふうな異動があるというのは割と普通のことなのではないでしょうか。

○近藤館長 市役所の場合、4月に大きな異動があつて、次に大きいのが10月です。このところ、10月異動は割と小規模だったのですけれども、図書館は10月に動く人はほとんどいなかったのですけれども、徐々に動いたというようなところでしょうか。ただ、市役所全体で見ると、4月異動は大きいですが、10月異動は小さいです。

○山口委員長 嘱託員の方がお1人退職なさっているので、実質職員の数が1人減という状況が今起きている訳ですね。

○近藤館長 その点につきましては、実は今年度の嘱託員の報酬の予算の関係で一部削っている部分がありまして、準備としては全員、昨年度お勤めの方が継続してお勤めできるだけの予算は確保してはいたけれども、おやめになった場合は5名までは補充しないという形で今年度については運営していました。4月の段階で4名、それぞれご事情があつておやめになった方がいて、そ

れについての補充はしてこなかったのですけれども、今年度5人目の退職が出たところですから補充はしないということになります。

鶴川駅前図書館からなぜ異動させたかということ、最後に5人目のおやめになる方が出た場合は、鶴川駅前図書館を減員するというのは全館的に了解が得られていたので、そのような形をとったところです。

○山口委員長 わかりました。

そうすると、来年度また人の問題が出てくると思うのですが、減った分、今年は今5人減の状態ですが、また来年度に向けては、その分を含めて嘱託の採用ということはお考えになっているのでしょうか。

○近藤館長 その辺は、来年度予算は今まさに編成中なので、明確な答えは言えませんけれども、予算が確保できればそのような形になりますし、難しければ今の現有の人数を基本に、そこより下がることのないようにしていきたいと思っております。

○山口委員長 1人2人とはいえ、5人も減ると、特に町田市の図書館は、今日、2015年度の統計が出ていますけれども、利用が多いですから、1人当たりの労働量の問題とかがあるのかと思うので、今後とも注視していきたいと思えます。

では、人事についてはよろしいですか。

次に、市議会の9月定例会についてということで、一般質問はないということですが、文教社会常任委員会で図書館関係の話題が大分出たようですけれども、この辺につきまして何かご確認、ご発言はありますでしょうか。よろしいですか。

続きまして、教育委員会の報告事項です。第6回、第7回とあわせて見ていきたいと思いますが、第6回で文学館の「八木重吉」展、これについては資料2のところに概要が出ております。あと第7回で、同じく文学館の資料4、「妖怪がいた！」展の報告です。この2つの展覧会、展示についてはいかがでしょうか。

質問というよりは感想ですけれども、「八木重吉」展が22日から始まっていて、まだ実は私は行っていませんが、有料展でどのくらい入るのかというのは関心のあるところです。それに関して、「妖怪がいた！」展は夏休みにぶ

つかっている企画で、観覧者数が1万6604名ということですが、この数字についてはどのようにご覧になっているのでしょうか、教えていただければと思います。

○近藤館長 まず、夏展の妖怪の方ですけれども、この1万6604人というのは過去の文学館の展示の中では最大ということで、多くの方に見ていただいたということになります。夏はお子さんが楽しみやすい展示を心がけていますので、それが今回はすごく利用があったということで、この数字はなかなか成果があったと思っています。

○山口委員長 今年は夏場にほかのところでも妖怪絡みが随分ありまして、新聞などのイベント案内にも出てきたりしていたので、相乗効果も期待できたかと思うので大変よかったかと思っています。ぜひこういう世代を超えて集まれるようないろいろなイベントも工夫して頑張ってくださいと思います。

○清水委員 子ども向けのワークショップがいろいろ開かれていたと思うのですが、ここに参加された子どもさんたちの年齢層というのはどれくらいで、これは親が申し込んできたのか、そこら辺をとしょかんまつりの参考にしたいので伺いたいです。

○中嶋副館長 ワークショップ、今回の夏展の関係ですけれども、ここの①②③④⑤とあるのは基本的に子ども向けワークショップですけれども、大体小学生です。ものによって分けています。例えば「妖怪絵巻をつくろう」というのは小学生でも高学年層を中心に集めました。また詳しいことは文学館の担当に聞いていただければ、そこら辺の人数とか集め方というのはお話しできるかと思っています。私の伺っている限りでは、全て初日で全部満杯、募集した時点で満杯になったと聞いております。

①は実は私がやったのですけれども、小学生、小さい子でも1年生以上ぐらいなので、そこそこ皆さん楽しんでやっていたらっしゃったというふうには記憶しております。

○清水委員 もう1点、中学生、高校生、大学生ぐらいの子たちが来ていたイベントというのは、この中ではどれかありますでしょうか。

○中嶋副館長 単体で来ているのはあるかと思うのですけれども、講演会に少し来ているかどうか、あとは恐らくオープニングイベントを見ていただけるレ

ベルですね。あと、ギャラリートークなどにいらっしゃった方はその時点で聞けますので、そこには入っていた可能性はあるかと思えます。ただ、個別にギャラリートークは何年生ですかとは聞いていないので、そこはちょっとわからないのですが、中高生は難しいですけれども、若い世代の方はかなりいらっしゃったと伺っております。

○山口委員長 (4)の夏休みおはなし会(全4回)というのは参加者が109人となっているのですが、これは要するに4回の延べ参加者数ということでよろしいですね。

○中嶋副館長 はい。

○山口委員長 そうすると、平均で25人前後ぐらい。これは文学館の中でやったおはなし会ということですね。

○中嶋副館長 これは文学館の中でやったおはなし会で、当然ボランティアさんと一緒にやってもらっております。この109人も、恐らく小さい子を連れてお母さんもいらっしゃるケースが多いので、そうすると、お2人でカウントしますので、おはなし会としては結構いい人数ですね。

○山口委員長 わかりました。

ぜひこういう夏場の学校が休みのときに、それとうまくリンクするような企画を今後とも考えていただければいいなと思えます。毎年妖怪という訳にもいかないでしょうから、回数を重ねると、その先がなかなか大変かなとは思いますが、ぜひいろいろな機会をつくっていただければと思います。

では、教育委員会関係の報告事項で資料3の「2015年度 町田の図書館」、今日お手元にピンク色の冊子があるかと思うのですが、これについて質問またはご意見をいただきたいと思いますが、私からまず最初に確認ですが、この内容につきましては、ホームページにはもうアップされているのでしょうか、まだアップはしていないのでしょうか。

○近藤館長 まだアップしていないと思いますけれども、近日中に。

○山口委員長 わかりました。あとは一般向けには閲覧用ということで。

○近藤館長 「町田の図書館」につきましては、都内の図書館に資料として渡したりしますけれども、市民の方にお配りはしていないので、図書館の資料として入れて閲覧とか貸出に供するという形になります。

○山口委員長 これにつきまして、今日配付されたものですので、この場ですぐ検討というのは難しいかと思うのですが、一番後ろの74、75ページのところを見ると、他の自治体との比較ということで、これは日本図書館協会のデータを使って毎年丁寧につくってくださるので、町田市の図書館の位置づけが客観的に見えて非常におもしろいのですけれども、いろいろと現状が反映しつつあるのかと思います。

蔵書数とか団体貸出数、または図書費の決算額が10位という枠から外れてしまうことが目立つのですが、その一方で蔵書回転率が2位という高さを示しているというのは、あと1人当たりの貸出数が3位というところも、いかに利用されているかということがわかると思いますね。それをどう見ていくかというのは今後の課題なのかと思います。前年度までのものもホームページでも閲覧できますし、お配りしているものもあると思うので、ぜひ比較をしながらいろいろ考えていきたいと思うのですね。そのためには非常に重要な資料だと思います。

○鈴木委員 今、去年のものも持ってきているので、ほとんどの数字が去年よりも下がっているというところがとても残念ですね。1位ぐらい落ちているのと、図書決算費は8位から14位、これはちょっと古いので、多分去年とか今年はさらに下がるのだと思うのですけれども、2014年のデータな訳なので、本当に残念かな。予約件数も5位から6位とか、個人貸出も2位から3位とか、とても残念かと思いながら見ていました。

あと、これは2015年の問題ではないのですけれども、前にデータがちょっと違って、それをお知らせしたら、何らかの形でそれはどこかに載せるということ……。

○近藤館長 済みません、データが間違っていたということのご指摘を受けて確認して、ホームページに修正版がたしかもう載っているのではないかと思います。間違えたことについては申し訳ありませんでした。

○鈴木委員 図書館に置いてあるものは直していただいていますでしょうか。紙版のもの、実際は紙で見ることも多いでしょうから、ぜひそれは直しておいていただきたいと思います。

○近藤館長 その点については、閲覧用の資料については今まだ訂正できてい

ないと思うのですけれども、差し込み、訂正をするという形で考えたいと思います。訂正というのは、つまり工夫して。

○鈴木委員 1館当たりのこの辺でしたね。全面的なものではないので、簡単に入れておいていただければと思いました。

○山口委員長 あとはいかがでしょうか。

外部評価でも、こういうデータがかかわってきますので、これをまたお持ち帰りいただいて、お時間のあるときにしっかりと読み込んでいただければと思います。また、何かこの内容について確認をしたいとか、質問等がありましたら、協議会の時間以外でも事務局、また館長、副館長の方にお尋ねいただければと思います。

最後に、報告事項で文学館まつりの開催、資料5についてです。これは23日ですので、この間の日曜日ですね。こちらはいかがだったでしょうか。

○近藤館長 この日は文学館まつり、あと時代祭りも行われており、文学館の前の通りをちょうどパレードといいますか、時代祭りも通るみたいなことで、今まで以上に入館者、来られた方は多かったと聞いております。昨日、文学館長に聞いたところ、今集計中でまだ固まっていないのですけれども、とりあえず例年以上のかなりの来館者があったという形で聞いております。

○山口委員長 そういう相乗効果があるといいですね。できるだけ多くの人に文学館の存在を知ってもらえる訳で、いいですね。それは統計が確定したら、その数値をぜひ知りたいと思います。見てみたいと思います。

では、教育委員会の報告に関しては以上ということよろしいでしょうか。

あと、次第に戻りまして、その他というところでエコフェスタ参加です。BM（移動図書館）が参加したということですが、こちらについては何かご意見、ご発言はありますでしょうか。

前にもBMをイベントで使ってPRというので成果が上がったというご報告を受けていますが、これもいいと思います。BM、ふだん利用している人にとっては当たり前のものなのですが、BMで貸出サービスを受けたことのない人にとっては珍しいというのものもあるし、子どもなどは関心を持つと思うのですね。ですから、そういうところから図書館の利用者の裾野が少しでも広がっていく可能性はあるので、もちろん、平日はBMの通常の業務があるから難しい

と思うのですが、時間が許せばぜひいろいろなイベントなどで図書館サービスのPRをしていただければいいかと思うのです。

○鈴木委員 これはリサイクル文化センターであったのですか。

○近藤館長 リサイクル文化センターで行っているエコフェスタに参加したということです。

○鈴木委員 借りていった方も結構たくさんいらしたのですか。

○近藤館長 イベントに移動図書館を持って行って移動図書館、あるいは図書館を知ってもらおうという取り組みを始めたところなのですけれども、特別なときには今現在は貸出はやっていないのです。ただ、それも何とか工夫できないかと思っていますので、検討していきたいというところです。

○清水委員 利用者の登録はそのときにできるのですか。

○近藤館長 登録についても、そのときはやりませんでした。それもあわせてということが課題かと思えます。近くに図書館がなくて、昼間、移動図書館に来られる人はかなり限定されますので、そういう方が登録というチャンスのいい機会でもあると思うので、その辺、工夫の余地があるのかとは考えておりますが、今のところはまだやっていないということになります。

○鈴木委員 ぜひ貸出と登録をやっていただくといいですね。

○山口委員長 移動図書館車が3台走っている自治体はそうそうないので、それだけ町田市は市域が広いし、細長いので、ぜひいろいろな形でこれを使ってカバーができるといいですね。

よろしいでしょうか。

では、続いてエルムビル——このビルですね——屋上防水工事です。ちょうどやっている最中ということですが、これについてはいかがでしょうか。

今の段階では特に確認等はないのでしょうかね。

では、館長報告の最後で、来年の2月ですけれども、平成28年度の東京都多摩地域公立図書館大会ということです。私から確認ですが、何か大きいテーマみたいなものはまだ全然決まっていないのですか、ある程度決まっているのですか。

○近藤館長 今記憶がないのですけれども、大会のときに掲げるスローガンは

たしか決まったと思います。あと、3つの分科会というか、3つに分かれるのですけれども、たしか館長協議会と地域資料と障がい者サービスの3つだったと記憶しています。

○山口委員長 今年は児童サービスはないのですね。

○近藤館長 小規模な大会なので、その3つだけということで、その次の年になると全て、公立図書館の多摩の集まりには5つの研究会があるので、5つの研究会プラス館長協議会で6つの企画をやるということになると思うのですけれども、今年度については3つということになります。

○鈴木委員 去年の大会の後、各自治体のボランティアの数とか、どういうふうに活動しているのかとか、町田市のそういうものを後からデータとして出していただけるような話だったのですけれども、その辺はどうなっていますでしょうか。私たちが協力して調査はしたのですけれども、それが返ってきていないというのがちょっと、せめて町田市の状況がわかるといいなと思うのです。

○近藤館長 その辺、うまくその後の処理ができていなくてご迷惑をかけてしまったと思うのですけれども、全体のものというのはいろいろ各市お考えがあったのでできないということは決定なのですけれども、町田市のご協力いただいた方にどのような形でお示しできるかは考えて、例えばこういう結果でしたというのをご回答いただいた各団体に送るとか、あるいは各図書館に備えつけるとか、その辺も含めて考えさせてください。

○鈴木委員 あとホームページに載せるとか、何らかの形。何かの調査というのは、必ずそれが戻らないともったいないと思いますので、ぜひお願いします。

○山口委員長 よろしいでしょうか。

来年の2月1日ですけれども、これはたしか12月ぐらいには情報が配付されましたね。図書館の側から協議会の委員には参加申し込みのメールが去年来ていたかと思うのですけれども。

○近藤館長 例年ですと12月ぐらいにはタイトルもしっかり決まったものが来ると思いますので、それはお配りしたいということ、あと自由に行っても参加できないことは多分ないので、事前に実行委員会でも押さえないということなので、図書館を通じて参加いただけるかどうかは皆さんに確認した

いと思っています。

○山口委員長　ご予定のつく委員さんはぜひご参加いただければと思います。

館長報告事項に関しては以上ということよろしいでしょうか。

続きまして、次第の裏側ですが、委員長報告です。2カ月ほど間がありましたので、3つほど簡単に報告をさせていただきます。

まず、生涯学習審議会の報告ですが、先月、生涯学習審議会が10月11日に本庁舎で行われております。前回と次回が生涯学習施設のヒアリングということで、各施設の担当の方から、どのような活動をしているかなどということをお伺いすると、あとは実際に施設のコストとか、そういう問題にまで触れてお話をいただくということを今やっております。

前回、生涯学習センターと自由民権資料館についてヒアリングを行いました。はっきり言って時間が短いので、いっぱいいっぱいだった訳ですが、これですぐ何か結果が出るということではないのですけれども、最初に報告を受けて、その後は参加した各委員からフリートークの形で質問をしたり、質問をするというのが主なのですけれども、途中からこうするといいのではないですかという意見も出てきてという訳で、大変熱心なやりとりがありました。

全体としては両方とも大切な施設なので、ぜひ何とかそれは頑張って維持してほしいという印象を皆さんお持ちだったようです。特に自由民権資料館については、生涯学習審議会の委員の中では比較的評価が高かったですね。やはりこういうものを、一方では場所の問題もあるので、なかなか来館者が伸びない。ただ、来館者で計ってしまうと、こういう施設の正しい意義というのは評価できないのではないかとということもありましたし、そこからどうやったら来館者というか、利用が増えるかというので、意見みたいなことも出ておりました。そのような感じで話が進んでおりました。

その場では特に総括をすることもなく、一応ヒアリングは終わりということで、続いて、まだ開催案内が私のところには来ておりませんが、来月が今度、図書館と文学館についてヒアリングということで、生涯学習審議会の委員との間でやりとりをするということになります。ちょうどその時期にぶつかって文学館の「八木重吉」展などもありますから、ぜひ委員の皆さんもそちらに足を運んでということで、自由民権資料館は行った方と行っていない方といらっし

やるのですけれども、今回のヒアリングに合わせて事前に行ってきましたという委員さんも何人かいて、皆さん大変前向きに熱心に取り組まれているので、ぜひ図書館や文学館も実際に来ていただいて、利用していただいて、その上でヒアリングしていただけると期待をしております。

これにつきましては、また終わりましたらば、中央図書館と文学館ですので、図書館協議会にもかかわりがありますので、詳細な報告、これは私からするのがいいのか、それとも館長報告になるのかわかりませんが、協議会の席上で話題にさせていただきたいと思います。今、こんな形で生涯学習審議会は進捗しております。

なお、審議会は公開になっておりますので、よろしければ傍聴に来ていただければ、どのレベルの話をしているかということがリアルにわかると思いますので、そちらもお奨めしたいと思っています。

まず、これが生涯学習審議会についての報告です。

続きまして、2番目の全国図書館大会の報告です。こちらは去る10月16日ですけれども、青山学院大学を会場に、今年は日曜日1日だけという大会でしたので、全体としては参加者数はやや少な目でした。私は、実行委員として第14分科会「市民と図書館」という部会のコーディネートをしていたのですが、今年は公立図書館における市民参画のあり方というテーマで、この分科会は図書館友の会全国連絡会という全国組織が主催しております、実は私はその運営委員も兼ねているものですから、そこで事前に図書館協議会の全国調査というものをやりました。

これは本来、文部科学省がやるような仕事なのですが、国の調査は社会教育調査が3年に1回あって、かつ協議会があるかないかという点だけの調査で終わっています。それに対して、もう少し現状をはっきり把握しましょうということで、図書館友の会全国連絡会は今全国に会員がいますので、協力できる方ということでお願いして、かつ期間がちょっと短かったのですが、8月下旬から9月15日までという2週間ちょっとの間で調査を行いました。それでも80件ばかりの情報が寄せられました。

詳しいデータはまだ整理中なのですが、コメントがいろいろありまして、協議会のある自治体または図書館の利用者または委員さん、または一市民として

の意見、または図書館員としての意見もありましたけれども、全体的に回数が少なくて議論が深まらないとか、やはり回数と絡むのだと思うのですが、委員をされている方が図書館について基本的なことがわかっていないので、議論をしていく中で何を考えたらいいのかよくわからないという意見とか、あとは委員の選出区分に学識経験者とか社会教育に関する者、学校教育、家庭教育とありますが、学識で選ばれた方なのですか、自分は図書館情報学の専門ではないので、専門的な分野についてはコメントも何もできない、どうしたものかとか、かなり生々しい感想が出ていました。

そういう中で、たまたまパネルディスカッションでの発言だった訳ですが、私の前に町田市の協議会の委員長をされていた松尾先生が今、福生の協議会の委員長で、実は福生では図書館協議会ハンドブックというものを独自につくったと。要するに、関連する法令とか情報、町田市でも新しく委員になるとコピーでどさっと皆さんいただいたと思うのですが、もっとふだん持ち歩くようなハンディーなものをつくっていますというので、実際に見せてくださいました、ああ、そういうものも実はあると便利なのかと思いました。それはちょっと私も考えてみようかと思ったので、ぜひ今後提案していきたいと思います。

もう1つは、今回調査をやっている気づいたのは、図書館評価の外部評価組織として協議会が動いている例が幾つかある。そういう観点で表記をしてもらっていなかったのも、あるいは書いていないところもあるのかもしれませんが、うちと同じような評価をやっているところがほかにも幾つもあるというのは見えてきました。

ですから、一体どんなふうに行っているのだろうかとか、逆に評価をやっているところは多分それなりに問題意識を持っていると思うので、そこは一体その評価を通して何を得たのか、いろいろと興味は尽きない訳ですが、そのパネルディスカッションのときにも、ぜひ図書館協議会の横の連絡をつくった方がお互いにいいのではないかという意見が多数出ておまして、そういう方向で何かできないかなということは今検討している段階に入ってきました。

年2回のところもあれば、年1回のところもあり、今回調査したところでは町田市と国立市が多かったのですが、でも、やはり回数だけではなくて内容とか活動も含めていろいろな幅がありますので、ぜひ全国的なネットワークで情

報交流ができればいいのではないか。それでお互いにいいアイデアがあれば、それは共有していけるといいのではないかと思います。

パネルディスカッションも、今年は90分近くとったのですけれども、かなり白熱をしたというか、参加者からの発言も大変多かったので、アンケートを見ますと、例年になく充実していたというご意見を多数いただきました。そういうことでございます。

分科会での内容については、現在、パネリストの基調報告は日本図書館協会の大会ホームページでPDFファイルで閲覧ができますが、これは来月で閉鎖になります。その後どうなるかというところ、これがそのまま大会記録として印刷物として刊行される予定です。今、その原稿を私も書いております。あと、「図書館雑誌」の1月号にハイライトという形で各分科会の様子が出ますので、あわせてそちらもご覧いただければいいと思うのですが、それも今原稿を私が書いております。そんな具合です。

あと、ほかの分科会については私も一切顔を出す余裕がなかったのですが、ほかの分科会の様子などはそういうところでご覧いただければと思います。

図書館大会については以上ということになります。

ちなみに、来年ですが、もう日程が決まっています、10月12日、13日に、ウィークデーですけれども、今度は代々木のオリンピックセンターでやる2日間の大会になります。図書館友の会全国連絡会としては参加の方向で考えていますので、市民の分科会は続くかなとは思っていますので、またいろいろ情報が入ってきたらご案内を差し上げたいと思っております。

図書館大会についての報告は以上です。

まず、2つ報告を申し上げましたが、これにつきまして何か確認とかご発言はございますでしょうか。

○鈴木委員 両方とも傍聴と参加をしたのですけれども、生涯学習審議会もみんな真剣に考えていて、私もいろいろ教えられたので、次回、11月7日は決定ですか。

○山口委員長 ちょっとわからないですね。

○近藤館長 日程ですけれども、次回は11月7日で決定でよろしいと思います。9時半からです。

○鈴木委員 特に今度は図書館ですし、ぜひ参加したいと思います。

図書館大会の方は、昨年よりもパネルディスカッションが随分充実して、本当に各地の様子もわかり、去年は随分講演の方に時間がかかって、余りディスカッションもできないままだったのですけれども、今年は随分各地の人のいろいろな状況を説明したり、意見もおっしゃったり、いい集まりだったなと思いました。

○山口委員長 ありがとうございます。生涯学習審議会に関して言えば、図書館も当然生涯学習施設なのですが、図書館の問題というだけではなくて、生涯学習全体として捉えていくという視点が得られるので、ぜひそういう広い目で見るといえるのは大切なのと、審議会のメンバーに社会教育委員の委員さんもうらっしゃいますし、各生涯学習関係の代表者という形で参加されているので、ヒアリングのときには一方的に質問、また聞いたりという関係ですけれども、ディスカッションになるとそれぞれの施設の事情とか状況が見えてきますので、そういうところで逆に図書館の立場をしっかりと伝えていくのが協議会から派遣された私の仕事かなとは思っているのです。そういう意味で、できるだけコミュニケーションをとるようにしていますが、我々にとっても、町田市の生涯学習の全体像が見えるいい機会だと思います。

あと、図書館大会については、清水委員、ご参加いただいたようですが、いかがですか。

○清水委員 今回、各地からいろいろな思いを持ってこられた方が発言されていて、協議会はないのだけれども、どうしたら市民の声を図書館に反映させていけるのだろうか、そういうようなことも真剣に考えていらっしゃる方がいるのだなということがわかって、協議会があるのだから、そこで頑張らなければいけないのだなと改めて思いました。

○山口委員長 ありがとうございます。そうなのです。協議会がない自治体の人たちは、どうやって意見というか、図書館とコミュニケーションをとったらいいのか。もちろん、職員の方と個人的にコミュニケーションをとられている方もいるし、職員の方たちの中にも、そういうことに積極的な方もいらっしゃる。だけれども、やはり仕組みとしてないということ、どうしたものかということで、そういう意見などは随分ありましたし、もちろん、パネルディスカ

ッション以外のところでも、そんな話はいろいろありました。

一方では、図書館協議会というのは、制度としては図書館法によって位置づけられてはいるものの、置くことができるというので、要綱によって設置をしていくというのが基本で、いわゆる必置ではないのですね。これは地方自治という観点から、国が置きなさいというのではなくて、その自治体なり、その市民なりの合意の中であつてつくっていく。いわゆるアメリカで言う図書館委員会ですか、あれは人事権まで持っていますから、日本の図書館協議会などよりもっと強いのですけれども、そういう発想なのですね。

だから、戦後のちょうど1950年、昭和25年にできた法律ですけれども、当時の民主化の中で、どちらかという個人というものを重視した法律ではないかと思うのですね。ですので、自治体によっては要望で設置されたところもあり、いまだにないところもあり、全国では大体5割から6割ぐらいの間の設置率ということになっております。ちなみに、町田市の場合は住民の要望で請願が通って設置されている。今年で32年目ぐらいになりますね。

ですので、ある意味では、そこで設置をしてくれた、これは市民と図書館と行政とで一緒に考えてつくってくれた訳ですので、その仕組みをぜひ大切に守っていかなければいけない責務があるということだと思っております。そういう意味では、図書館協議会をどういうふうにしたら活性化できるでしょうかというような相談も受れたり、いろいろなところで真剣に考えている方がいますね。ぜひそういうところで力を得て、ふだんの自分たちの活動にも使える。できれば、それによって地域の図書館がよくなるというのは我々としては非常にいいことだと思います。

よろしいでしょうか。

では、最後の3番目ですが、「文部科学省 平成28年度『学校図書館の現状に関する調査』結果について」、これは今日最後に配付されている資料ですか。10月13日で文部科学省のホームページで出ていたものです。必要のところだけ、かかわりのありそうところだけ事務局にお願いして印刷して配付していただきました。

あくまでもこれは統計数値なので、その実態というのは、この数値だけで判断してはいけない訳ですが、司書教諭の発令数、学校司書の配置状況とか、あ

とは学校図書館の現状を表すものとして、例えば図書標準の達成率、さらに後ろの方に行きますと、公立学校における図書標準の達成率、ちょっと細かい字になっていますが、一覧表などがあって町田市もあります。

これは見ただけでは多い、少ないというのが一体どういう意味を持つのか、数字がどういう意味を持つのかというのはわかりにくいと思うのですが、町田市の協議会では学校図書館のことも念頭に入れて今まで議論が行われたりしておりますので、こういうデータはやはり押さえておく必要があるかなと思って配付してもらいました。

これについて、私は学校図書館の現場をしょっちゅう見ている訳ではないので、コメントをもしいただければとは思いますが、清水委員、いかがでしょうか。

○清水委員 私も、今までのことをきちんと年次を追って今日臨んでいる訳ではないのでわからないのですけれども、学校司書の配置だとか、図書標準に達している学校の割合だとかというのは、恐らく全体として見たら増えているのだと思うのです。

ただ、その内容というのはここにはあらわれてこないもので、司書が配置されているというのも、町田市は学校司書ではないので配置されていないのですけれども、どういう内容で、例えば1週間に1回とか、何校を1人でやっているとか、そういうものでも学校司書として配置したということになれば、配置というふうになってしまっていると思うので、内容についてはもうちょっと細かいものを見ないと、これでよくなっている、とりあえず入っているのか、中身がよくなっているのかというのは一概には言えないと思うのです。

本についても、図書標準に達しているかどうかということだけなので、内容がどうであるとかではなくて、冊数は図書標準に100%達しているということなので、それは全体の何校分の何校かという話だけになってしまうので、いろいろな問題があるのですけれども、これでよくなっていったら、もう問題がなくなってというか、それでもう学校図書館が充実したのかということになると、またちょっと違うと思うので、文部科学省も今ここの2点を一生懸命言っているのですけれども、学校司書の資格も含めてもう少し見守っていかなければいけないのかと思っています。

○山口委員長 ありがとうございます。統計の場合は、この数字が実際に何を反映しているのかというところが必要なもので、数字は数字として見るものの、一方では現場を見てみるということが大切なのかと思います。

あと、図書館協議会として考えると、11ページ目の(4)で公共図書館との連携状況というところが一番かかわりがあるのかと思うのですね。これは図書館の業務とリンクしてくるところだと思うのです。これはざっくりした数値しかここには出ないのですが、例えば小学校だとパーセンテージだけ言えば82%ですか、それが中、高というところと半分ぐらいに減ってくる。

また、その内訳ということで貸出、団体貸出も含めてだと思いますが、あとは定期的な連絡会の実施、さらには学校司書への公共図書館司書の訪問というような形になっています。圧倒的に多いのは資料そのものの貸出、裏を返せば、そういう要求が多いということなのかもしれませんが、一方で、連絡会とか公共図書館の司書の訪問というのは、どちらかというところとちょっと落ちてくるというのは数値の上では見てとれますね。

ただ、実際に訪問というのも、私たちの場合は町田市内の地域館の視察をやったときに、ブックトークで学校に出張しますというようなお話も聞いていますので、そこら辺の内容とか質をもう少し見きわめていきたいと思うのですね。やはり自治体によって違うとは思いますが、ぜひ地域館なり中央館、近いところの学校とうまく連携できるにはどうしたらいいのか、そんなことも課題になるのかとは思っています。

○鈴木委員 この間の全国図書館大会の昼休みに一緒になった方が福島市の公共図書館、市立図書館の職員の方で公務として参加されていたのですが、その方のお話だと、その学校司書はあるのだけれども、半日というか、4時間で1人で3校抱える。そうすると、ほとんど何もできない状況。だから、それはここにある配置学校になっているのだと思うのですけれども、実質は1つの学校に1日とか1日半とかしかいられない。だから、この数字だけでは見えないというところ。そこを何とか人数を増やして1校に1人という方法で行きたいけれどもという話はされていましたが、そんな状況をちらっと聞きました。

○山口委員長 これは表紙のところを見ると、文部科学省の児童生徒課がまと

めている統計なのですけれども、公立図書館に関する問題というのは部署が別になるのですね。生涯学習という図書館政策の担当官がいますので、だから、そこら辺で横に役所の中でどうリンクしているのかなと関心はあるところなのですが、一方で、今、鈴木委員のおっしゃったように、内実をもうちょっと見ていかないといけないし、数字だけで達成されたからよかったねということにはならないと思うのです。

ただ、数字というのは、ある程度力を持ってしまう場合があるので、私は仕組みとしてよくわからないところがあるのですが、例えば地方交付税の算定基準にこういうものが使われているようなことがあるとすれば、内容はともかく達成しているではないかということになってしまうと、それは違うだろうということにもなるので、やはりこれが出たというのは1つの成果として受けとめながら、例えば現実に町田市の場合はどうなのかなということを見ておく必要があると思うのです。そうすることで多分公立図書館と学校図書館の連携とか、学校図書館支援というものがどういう必要性があるかというのが見えてくると思うのです。

あとは、地方交付税に関しては、やはりもう少し勉強した方がいいなと思っています。というのは、図書館協議会も実は今年から地方交付税の算定基準に入ったのですね。県立は前からあるのですけれども、市区町村立は来年度の分から入ってくるのですね。実際に開催日数、委員数とか、あとは出張旅費みたいなものまで認められて、要するに、視察に行くことになっています。ですので、実際に設置されていない自治体では、それを根拠に設置できるのではないかという話もありましたし、そういう意味で制度自体が国の方で変えてきているいろいろな意図があるのですけれども、それを我々もちゃんと把握して評価していかないといけないということなのです。

このデータはぜひ今後いろいろと使っていければと思うのですが、もっと詳しいものは文部科学省のホームページで、このタイトルで検索すると出てまいります。大変膨大なものなので、全部印刷していただくのは申し訳なかったので、必要なところだけお願いをした訳です。

○鈴木委員 地方交付税というのは、この間の全国大会の松岡要さんのお話で、最低基準であるということを繰り返しおっしゃって、それが努力目標では

なく、最低基準の金額としてあそこに文部科学省が出しているというのが、ああ、そうなのだということを改めて知ったので、人数なども、その人数が一番いいのではなくて、例えば協議会委員だとか、そういうものも最低基準としてこれだけは確保できるようにというので交付されているということだということ、改めて地方交付税の意味を知りました。

○山口委員長 そうなのですね。あれを満たせばいいではなくて、あれがむしろ最低基準で、それを上回る何がしかの努力をせよということで、ミニマムアクセスというのか、ラインを引いてくれているのですね。ですから、それをどう生かすかというのは、あと各自治体またはそれぞれの市民の役割ということなので、そういうものもしっかりと押さえておかないといけないということだと思います。ですので、こういう統計データなどが時々ぽんとネット上で出てくる訳ですけれども、こういうものもぜひ目配りしながら情報としては上げていきたいと思います。

委員長報告としては以上ですが、何かご発言、その他はよろしいでしょうか。

それでは、協議事項ですが、図書館評価については今日の定例会が終わった後に打ち合わせをしますので、そこには入っていませんが、前に話題にしました議事録の件について協議事項として加えておきたいと思います。

では、議事録の件について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局 今、委員長から話がありました議事録の件ですけれども、前回の8月定例会のときに、紙ベースでお配りさせていただいている議事録をもうちょっと簡略化できないでしょうかという提案をさせていただいたところ、やはり紙ベースであった方がいいといったご意見も結構あって、事務局でも幾つか検討して、メールで事前にこんな形ではいかがでしょうかということで送らせていただいたかと思います。

内容的には、紙ベースのものを全部やめてしまうということではなくて、1つの提案として、会議資料という位置づけではなくて、参考資料という形で希望される方に配付するという形でいかがでしょうかということで、委員長とも事前に相談の上、おおむねの了解をいただきましたので、委員の皆様提案させていただいたところです。特にその後ご意見等はいただいているのです

が、提案どおり参考資料として今回お配りしているものと同じような形で希望者の方には紙ベースで配付をさせていただくという形でよろしいでしょうか。

また、(最終案)議事録作成等におけるデータ訂正については、今までどおり変更なく、メールでのやりとりで行いたいと思います。議事録の承認についても今までどおり変わらず、その直近のというか、次の協議会の定例会の場で、承認をいただいて、それから初めてホームページ等への公開という形で考えているのですけれども、いかがでしょうか。

○山口委員長 今、説明があったとおりののですが、次回からということになる訳です。これについては、今日ご欠席の委員さんもいらっしゃるけれども、事前のメールでは了解をいただいていたかと思うのですが、今出席されている委員さんも、そういう方向でよろしいでしょうか。

では、了解しましたということで次回からお願いします。

○事務局 ありがとうございます。もし今差し支えなければ、今日は3名欠席の方がいるのですけれども、出席した7名の方で、例えば今後についても紙ベースの議事録を希望される方は挙手していただいて、そうすれば、そのようにします。

久保委員と鈴木委員とお2人で大丈夫ですか。あと3名の方には、事務局からメール等で確認させていただいてという形をとらせていただきたいと思います。ありがとうございます。

公開されたものが最終的なものにはなると思いますので、ホームページ等では見ていただけると思います。もし必要であれば必要なところだけ抜き出して出力してもらうなりで対応していただけると、こちらとしても助かりますということで、ありがとうございます。

あと、前回話がありました図書館の方で、いわゆるレファレンスコーナーですとか、そういったところで紙ベースで資料として保存していくという形の件についてですけれども、それは副館長からよろしいですか。

○中嶋副館長 今の話と逆と言うと変なのですけれども、今のホームページ上等でデータとして議事録が出ております。ホームページから確認ができない場合等のための対処にもなるということなので、これは逆にデータを出力させていただいて、ホルダーみたいなものにまとめて図書館の閲覧用資料としてさせ

ていただこうと思っておりますので、それでよろしいですか。

○山口委員長 はい。

○中嶋副館長 では、それはそれでレファレンスコーナーに置かせていただくことにいたします。

○山口委員長 では、議事録の件は以上ということによろしいでしょうか。

あと、その他ということで、この機会にご発言または情報提供などがあればと思うのですが、としょかんまつり関係は何かありますか。

○齋藤委員 先日、第2回のとしょかんまつりの会議が行われました。そのときに、いろいろとお話の展開の中で、「子ども」がとれたということもあって、もう少し広範囲にまつりを広げていくというようなことが話されました。その一案として、大学生に声をかけましょうということ。保育関係の大学などには手づくり絵本とか、教科で習ったようなものを展示するといいますか、協力していただくということ。それから、幼稚園、保育園関係も、少し協力していただこうということで、園長会に呼びかけて、本はともだちということで、子どもたちの本とのかかわりの姿を図書館に掲示しましょうというような形で、少し外部の方を呼び込もうという話し合いをさせていただきました。

今回は、それについてもう少し詳しく話をする予定ですが、もう1つ、高校生にも呼びかけるということで、町田高校の演劇部にも声をかけさせていただく。それから、落語の研究会にも声をかけさせていただくということで、これからいろいろ中身を練っていくというような形になっています。

○山口委員長 どうもありがとうございます。

今まで「としょかん子どもまつり」で、「子ども」が取れたということで、幅が広がる訳ですけれども、少しずつこれから広げて輪が大きくなるといいなと思うのですね。生涯学習審議会でも、子どもだけではなくて大人も参加したいのではないかという意見は前から時々伺っていたので、どういう展開があるのか私はわからないのですが、ただ、いろいろ投げかけてみると、参加される、また企画をされる方も出るのかとは思いますが。

もう1度確認ですが、日程はいつでしたか。

○齋藤委員 3月24日から29日までの間、27日は月曜日で休館ということで。実際にプログラムの中に入っていくのは、内容の濃いのは、土日が中に含

まれていますので、そのあたりで全館協力いただくということでもあります。

○山口委員長 ありがとうございます。

あと、としょかんまつり関係は、久保委員もかかわっていらっしゃいますが、いかがでしょうか。

○久保委員 齋藤さんが今言ったように、「子ども」というのを外したのは、基本的には子ども中心の中身はそれほど変わらない訳だけれども、市民のいろいろな層の人たちから愛されるためにという基本のところを積極的に次年度では検討されているという感じで、そのための企画だけではなくて仕掛けみたいなものも含めて、積極的に考えていこうというのでアイデアが出されています。

この機会を利用して、図書館登録をしてもらおうということも積極的にということも、要するに、数値がそれほど大切な訳ではないけれども、図書館のいろいろなことを数値が公表されたりとか、そういうことで考えられる面が多いので、いろいろな機会を利用して図書館の活用の登録をしてもらおう。このときも積極的に利用しようという意見が出されて、それも仕掛けとして入っていくと思います。

あとは、これまでにやったものを継続しなければいけないということではなくて、そのとき、そのときの状況で、町田市の行事も、わいわいとか、いろいろなものが積極的にやられている訳で、そういうことで言ったら、図書館というのがどういう企画を今するのがすてきか、そこら辺の全体を見通しながら、本当に図書館を活性化するための企画ということが割と積極的に話し合われていると思います。そんな感じです。

○山口委員長 ありがとうございます。

○鈴木委員 今、実行委員がやっているのは、実行委員がかかわっているというか、そういうところに声をかけていて、図書館が逆に大人の団体というか、大人の図書館を利用している団体のようなところに声をかけるというか、そういう情報というのは個人情報に関係もあったりして、実行委員会にもらうことはできないでしょうけれども、図書館が働きかけることはできますね。

まちだ史考会とか何かは今も入ってくださっているけれども、せっかく「子ども」を外したから、大人でそういう活動をしている、ほかのさるびあ図書館

とかを借りてやっているところとか、中央図書館を使っての活動をしているとか、私たちには見えないけれども、そういうものがあつたら、そういうところにも、今度は子どもではなくて、市民全員を対象にしたとしょかんまつりなので参加しませんかみたいな働きかけをもし図書館がしてくださればいいのかなと思ったのです。

○久保委員 意見なのですけれども、市民協働というのを大切にというのは、今まで継続してきた中で、この行事はとても大切だと思っていて、図書館が何をしてくれるかということも大事なわけけれども。

○鈴木委員 図書館になにかしてもらおうという意味ではなくて、私たちが知らない団体があるかもしれない。図書館にかかわるといふか、図書館を利用している団体には図書館もぜひ。だから、協働だからこそ、共催だからこそ、こちら側で一生懸命でかかわる団体を探すだけではなくて、図書館もまた別途で声をかけてくださるといいかなという意味です。

○久保委員 それが本当にすてきに回っていくといいのだけれども、一遍にはやはり無理で、結局、人だと思ふのです。だから、図書館の各館にそういうことに積極的な人がいるとか、あと今、実行委員になっている人の中で、そういうことに積極的に人脈を持っている人がいるとか、そこら辺で、その年その年で、どういう部分で前向きに突っ込んでいけるか、そのときの人によって違うと思ふのですね。

そういう意味で言つたら、さっき齋藤さんが言つたように、次年度はそういう切り口のアイデアを出す人がいたという感じで、図書館も人事異動とかがあつて、今までずっと積極的にかかわつてきた人がほかの部署に行つたとか、いろいろあつたりするし、市民協働というのは、本当に人なのだと思うのですね。

○鈴木委員 そういうことで図書館も一緒に考えてくださいというだけで、別にそれ以上の深い意味がある訳ではないのですけれども、地域館はおはなし会ぐらいしか参加する機会がないのですけれども、さるびあ図書館は2階の部屋、会議室も利用したりしていないですか。ほかのところは、図書館の会議室などを利用するような場所がないから、おはなし会でしかかかわれない。

例えば鶴川図書館などでもそうですし、忠生図書館も多目的の部屋もあつた

りとか、そういうところを利用する団体などが地域館を使って何かができたりするといいかたとちょっと思っただけです。今年すぐ何かができるということでもないのしょうけれども、そういうふうに市民だけが参加するのではなく、一緒に参加できる団体に声がけするのもいいのではないですかと思いました。

○山口委員長 急にあれもこれもというのは無理だとは思いますが、間口がだんだん広がりつつあるというところはいいと思うのですね。まだこれは参加する団体や企画というのはこれから固めていくところ、もう固まったところですか。

○齋藤委員 団体は固まり……。

○山口委員長 固まっていますか。

○齋藤委員 はい。

○鈴木委員 でも、まだ随分あいているのですね。あいているというか、日程表の中では何も入っていないところも結構あったりするから。

○齋藤委員 今も図書館の方とお話をしてきましたけれども、人手不足で1つの館があいていると、よその館は閉めなければいけないといえますか、利用できないというのがあるようですね。人が必ず立ち会わなければいけない。図書館員が立ち会わなければいけないので、中央図書館で何かやっていると、文学館ではなかなかきちんとした対応ができない。

○近藤館長 お部屋があるという会場になると、中央図書館と文学館になるのですけれども、文学館は文学館としてお祭りに参加していただきます。とはいえ文学館は、それ以外の本来事業といたら違うかもしれないけれども、展示等、それに関連する講座等をいろいろやっていますので、やはり人手を割けないと思うのですね。そうすると、中央図書館の児童担当がお手伝いではないのですけれども、行かないといけないと思うのです。とはいえ、こちらで同じ日に行事がぶつかっていると、うまくいくところもあるでしょうし、そこはきちり日程、人員の調整をする必要があるという意味で、必ずダブっていたら無理ということではないと思うのですけれども、その辺はしっかりした調整が必要だという意味ではないのかと思うのです。

○齋藤委員 土日は確実に人手が多いので、文学館と中央図書館とドッキング

すると、なかなかきちんとした対応ができないということ、それはいたし方がないかなと思ってきましたけれども。

○清水委員 去年、一昨年も問題になったのですけれども、地域館で土日の人手が圧倒的に足りない。さっきも囑託の方が減らされたという話があったのですけれども、地域館では土日に催しをやるのは無理というふうなことを職員の方がおっしゃっているようなので、土日の利用者が多い上に、さらに催しで人がつくということができないというのは、人の面から断られたというような経過があるのですね。

○鈴木委員 おまつりのときは人員を増やすとか、そういうことは図書館全体の中では難しいのですか。

○近藤館長 職員、囑託で図書館を——あと臨時職員もいますけれども——回してしまっていて、おまつりがあるからといって、例えば平日を閉めるという訳にはいきませんので、平日には平日に日常の業務を回していくためには、各館の経験上、これだけは人数が必要だという中で、例えばおまつりのある土日に多く人を充ててしまうと、どこかでお休みをとってもらわないと職員の立場、働く環境を考慮しないといけませんから、そういうこともあって、そのピンポイント、土日で言えば2日間かもしれませんけれども、その辺が難しいというふうになってしまっているのかなと思います。

その辺も、簡単に難しいで終わってしまうのか、検討した上で難しいというのとはやはり違うと思うので、その辺、私も各館の状況を細かく聞いている訳ではないので確認しつつ、この3月では無理かもしれないけれども、この次に向けてということやってみたいなと思います。

○齋藤委員 ちょっと考えたのですけれども、このとしょかんまつりは協働なので、ここの企画は図書館員がいなくても、実行委員会の委員がいるだけでいいとか、そういうのは打ち合わせしながら振り分けるという特別枠という考えはできないものかなと思ったのです。

○近藤館長 詳細を全て聞いている訳ではないのでわからないのですけれども、もちろん、共催というか、一緒にやっていくということなので、全て図書館員が表に出てということは現実的に無理だと思うのですね。ですが、大きなイベントだと、1人は勉強の意味も込めて立ち会いたいという気持ちは職員に

強いのは確かなようです。その辺も含めて、どのようなお話をしているかももう1度確認したいと思います。

○齋藤委員 展示ぐらいであれば、実行委員会で対応できるというか、そういう形で緩めていただくと、あいている部屋も埋まるかなというようなことも考えられるのではないかと思います。

○近藤館長 今お話をいろいろ伺いましたので、担当に話を聞いて、どのような形がとれるのか、考えてみたいと思います。

○清水委員 としょかんまつりのことではないのですけれども、人の話でもう1点、ブックトークとか学校への出前の件数が増えているのですけれども、これは学校に職員が出ていってしまうと、お留守番をする人はゼロという訳にはいかないと思うので、かなり人員を割く仕事になってしまうのではないかと思います。このままブックトークの依頼が増えても対応できるような状態ですか。

○近藤館長 図書館の職員の気持ちとしては、依頼があればできるだけ応えていきたいというのが正直なところですが、確かに出かけてしまうと誰もいない訳にはいかないというのが1つ。出かけるにしろ、町田市は結構広いので、あとブックトークなどだと本も紹介する訳ですから、結構持っていくのも大変とかいうことがあって、そういうものが悩みどころではありますね。そういったところでは、図書館にすごく期待していただけるというのはありがたいし、応えていきたいと思いますが、やはりどこまでもというのは、どこかで限界が来るのかと思っています。

ですので、本当であれば、今後、今は何も考えていないのですけれども、そういったところに例えば一緒にやっていただける方を、つまり、ボランティアではないですが、やっただくような方を増やしていく方策とか、何か考えていかないと、市の職員、あるいは嘱託だけで対応するというのはどこかで限界は来るのかと思っています。

○増川委員 学校は来ていただいているのですけれども、私たちの立場にすると、来ていただくではなくて、それを見て教員が学ぶ。今度は教員ができるようにしていくというふうに持っていきたいと思っています。ただ、そこで大きなネックは、本を集められないということ。本当はお願いしたものが郵送

か宅配便でも送っていただければ、もっと学校は積極的に自分たちでできるようなことができるのかなというふうには思っています。

○近藤館長 今お話のあったこととちょっと関連するのかなと思うのですが、アイディア出しだけでまだ担当と詰めた訳ではないのですが、例えば中央図書館でそういう講座をやって、学校に個別に何うと1校だけで時間を使ってしまうので、近くの学校3校、4校に声をかけて、今言ったように先生とかに来ていただいて、あるいは学校で活動されているボランティアの方とかがいらっしゃると思うので、そういう方が中央図書館に来ていただいて、そういう講座をやって広げていくというのも1個話し合ったことがあるのですね。そんなアイデアが実現するといいのかなというのが1つ。

本は、今、支援貸出とかだったら配れるので、本来の趣旨とちょっとずれるかもしれませんが、そこは余り固く考えないで、そういうものを利用していくというのも、今の物流の件で言えば手なのかなと思いました。ちょっと考えたいと思います。

○山口委員長 よろしいでしょうか。

学校の支援は、学校図書館支援と、学校教育の支援と2つある訳ですが、公立図書館のサービスの中に入っていますので、それはぜひ続けてほしいとは思っています。特にブックトークだと、何年生向けとかテーマというので、多分パッケージのように資料を幾つかリスト化していくと、その中から逆に学校側に提案してもらおうというアイデアもあると思うのですね。ぜひ今ある仕組みをうまく工夫して、その中でまずはいろいろ試してみるといいのかなと思います。ぜひこれはやっていただければと思います。

あと、としょかんまつりの方ですね。幅が広がりつつあるということで、来年の3月の件はもう枠が決まっているので、結局その先ですね。「子ども」を外してどれだけ広げられるかなので、さっき久保委員もおっしゃったように、やはり人かなと思うので、できるだけ声をかけながら、こういうことをやっていきますよということをあちこちで伝えていく。同じ団体が継続して入るかどうかわからないけれども、いろいろな人がかかわっていくというふうになっていってもいいのかなとは思っています。そういう点では、大学関係には私の方からもお声をかけてみたいと思います。

あと、その他特になければ、本日は以上としたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、本日予定しておりました議題は以上でございますので、定例会を散会といたします。

—了—